

外装工事

施工期間（予定）  
2019.2～2019.10

建築物の外側の装飾や仕上げの工事を外装工事と言います。躯体工事で建物の身体をつくり、外装工事で身だしなみや服装を整えます。具体的には、建物の屋根や外壁に防水や塗装をしたり、サッシやガラスを取り付けたりする工事になります。

この外装工事は、雨や風、夏の強い日射しなどから直接的に建物を守ってくれるのはもちろんですが、建物の見た目や雰囲気作りにも大きく役立っています。

そこで今回は、外装工事のうち新庁舎の現場で特徴的な外壁工事の一面に触れてみたいと思います。

外壁ピーリング



「ピーリング（peeling）」は、「皮をむく、はぐ」という意味で、美容関係で耳にする機会も多いかと思いますが、「外壁ピーリング」とは、その意味のとおり外壁（＝コンクリート）の表面をはぎ取る工法です。新庁舎の外壁は基本的にはコンクリートの打ちっばなしですが、一部の外壁ではこの「ピーリング」という工法が行われています。これにより、つるんとした打ちっばなしのコンクリート表面に、他にはない表情が現れ、建物の印象を変えてくれます。



①施工前

いわゆるコンクリートの打ちっばなしの状態



②マスキング

ピーリングしない場所をマスキング（覆い隠し）します



③ピーリング作業中

超高压ウォータージェットにより、仕上げの状態に応じて、ソフト又はハードに削って意匠を作り出します



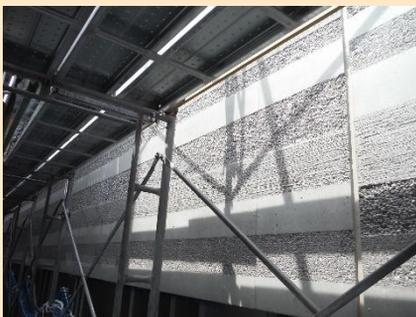
④塗装仕上げ

表面を汚れなどから守るため、削った後に上に塗装をします



⑤完成

無地のコンクリート表面にキレイなラインが完成!



実際にはこんな感じになります♪



☞ピーリングが入ることで全体的に締まった印象に☺



# 現場トピックス

# なぜなに? 「タワークレーン」

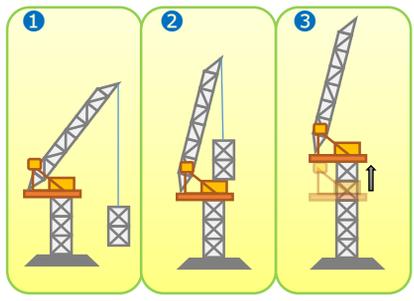


新庁舎の建設現場で、ひと際存在感を放つ「タワークレーン」。重い荷物を吊り運びながら当たり前のように活躍してくれているけれど、見てると素朴なギモンが湧いてきませんか？  
 高層ビルや大きな建物の建設現場には欠かせない「タワークレーン」、今回はそんなタワークレーンにスポットを当ててみます。



## Q1 どうやって組み立てるの？

タワークレーンがあの高さになる方法、それは「自分で上に登る」です。  
 クレーンのマスト（支柱）に自ら吊り運んだマストをつぎ足し、そのつぎ足したマストを自分で尺取り虫のように登っていきます。この方式を「マストクライミング」と言います。  
 これ以外にも「フロアクライミング」というクレーンを支える台座ごと登っていく方式もあります。



## Q2 ジブ（腕）の色が赤と白なのは？



タワークレーンの腕の部分のことを「ジブ」と言いますが、このジブは、赤色と白色が交互に塗られています。  
 実は、この塗装には決まりがあるのです。クレーンや鉄塔など細長くて視認しにくい、高さ60m以上の建築物には、飛行機から視認しやすいよう紅白で7等分の塗装をするように航空法で定められています。（この紅白の塗装のことを「昼間障害標識」と言います。）  
 言われてみれば、高さ333mの東京タワーもこの色で塗られていますねー。でも、ここでまたギモンが・・・東京スカイツリーは紅白じゃないじゃないかっ！  
 この理由、航空障害灯を設置すれば昼間障害標識は免除されるからなんです。東京スカイツリーは、高光度航空障害灯（白の閃光）を設置しているため、あの美しい「スカイツリーホワイト」が実現しているのです。

## Q3 運転席はどうなってるの？

地上から高いところにあるタワークレーンの運転席を見上げてみると色々興味湧いてきませんか？  
 そこで、秘められた運転席の様子を明かしちゃいます。

勤務地（運転席）まで約5分！



運転者はマスト内のはしごで上まで登ります ヒュッ(/ω\)

エアコン完備！



熱中症対策のため夏場の運転の必需品です

トイレも完備！



普段の姿 蓋を開けると・・・ 1度上がると基本的に作業終了まで降りませんので必須です

陽当り良好！見晴らし良好！①



運転席はいつでも南向きになれるので陽当り最高です！

陽当り良好！見晴らし良好！②



見晴らしも最高です！ただし、下を見る余裕のある方限定ですが・・・

明日に架ける虹！



時には、こんな景色から元気をもらえます

